

第5次高松市子ども読書活動推進計画



高松市

令和2年3月

目次

第1章 計画の策定に当たって

- 1 計画策定の趣旨 1
- 2 計画の位置付け
- 3 計画の期間
- 4 計画の対象
- 5 計画の点検・評価

第2章 高松市子ども読書活動推進計画の成果と課題

- 1 家庭・地域における読書活動 3
 - (1) 乳幼児への取組
 - (2) 児童・生徒への取組
 - (3) 市立図書館の整備と資料の充実
 - (4) 子どもの読書に関する普及・啓発
 - (5) 読書ボランティア等との連携と協働、活動支援
 - (6) 地域における読書活動の推進
- 2 学校等における読書活動 9
 - (1) 保育所（園）・こども園・幼稚園
 - (2) 学校
 - (3) 市立図書館との連携

第3章 子ども読書活動推進への取組

- 1 基本的な考え方 12
- 2 子ども読書活動を推進するための方策
 - (1) 家庭・地域における読書活動
 - ア 乳幼児への取組
 - イ 児童・生徒への取組
 - ウ 市立図書館の整備と資料の充実
 - エ 子どもの読書活動に関する普及・啓発
 - オ 読書ボランティア等との連携と協働、活動支援
 - カ 地域における読書活動の推進
 - (2) 学校等における読書活動 20
 - ア 保育所（園）・こども園・幼稚園
 - イ 学校
 - ウ 市立図書館との連携

発達段階別事業一覧 24

高松市子どもの読書活動に関するアンケート調査結果 25

用語解説 32

第1章 計画の策定に当たって

1 計画策定の趣旨

子どもにとっての読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより豊かに生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。そのため、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高め、進んで読書を行う態度を養い、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、家庭、地域、学校等を通じた社会全体で環境の整備を推進していくことが重要です。

本市では、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、平成16年8月に「高松市子ども読書活動推進計画」を策定し、その後3度の改訂を行いながら、家庭、地域、学校等の連携の下、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

こうした中、令和元年度末で、「新高松市子ども読書活動推進計画【第2次改訂版】」が終了すること、また、国が第4次基本計画を定めたことを受けて、これまでの成果や課題、子どもを取り巻く環境の変化等を踏まえつつ、子どもの発達段階ごとの特徴を考慮した効果的な取組を推進するため、新たな計画を策定するものです。

2 計画の位置付け

本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条第2項の規定に基づき、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第4次）」及び「香川県教育基本計画」中、子ども読書活動に関する部分を基本として策定するものです。

また、本市の最上位計画である「第6次高松市総合計画」を具現化する分野別計画の1つです。

3 計画の期間

令和2年度から5年度までの4年間とします。

4 計画の対象

計画の対象は、0歳から18歳までの子どもとその保護者等とします。

5 計画の点検・評価

本計画の推進に当たっては庁内関係課と連携し、毎年度、施策の推進や事業の進捗状況の確認等を行います。また、外部有識者等からなる図書館協議会による点検・評価を実施し、必要に応じて事業の見直し等を行います。



第2章 高松市子ども読書活動推進計画の成果と課題

本市では、平成13年12月の、子どもの読書活動の推進に関する法律の施行を受け、平成16年8月に、「高松市子ども読書活動推進計画」を策定し、以後、平成21年3月策定の第2次計画、平成26年3月策定の第3次計画を経て、平成29年3月に第4次計画となる「新高松市子ども読書活動推進計画【第2次改訂版】」を策定し、国の基本計画に示された基本方針及び推進方策を基本として、取組を進めてきました。

1 家庭・地域における読書活動

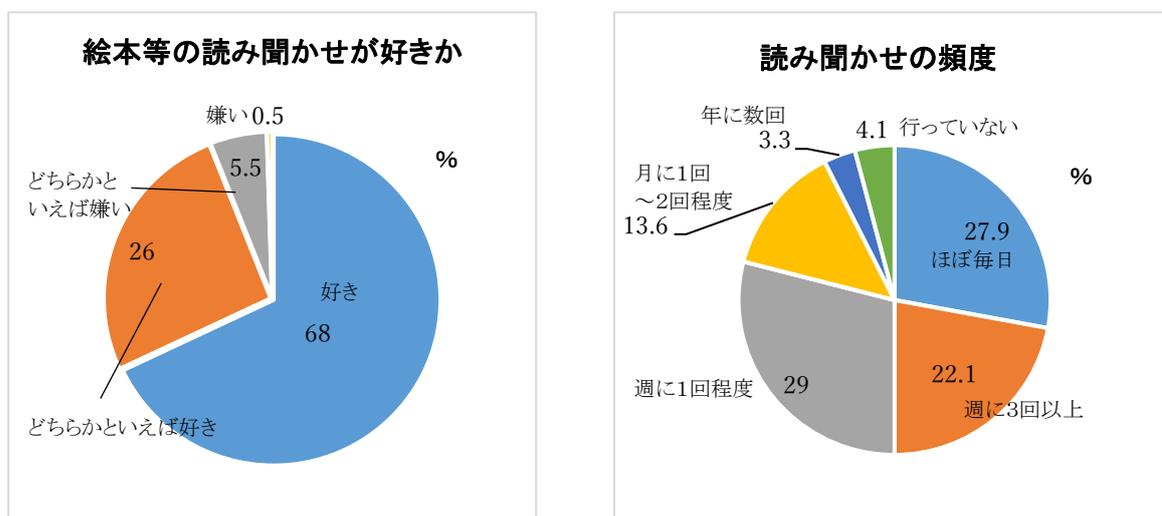
(1) 乳幼児への取組

子どもが本に親しみ、自主的・主体的に読書をするようになるには、乳幼児期から本と出会い、触れ合うことが大切です。親子で触れ合いながら絵本を広げ、読み聞かせをすること、その積み重ねにより読書習慣が身に付くようになります。

本市では、読書ボランティア団体等との連携と協働により、絵本の読み聞かせの実施やブックリスト（*①）の配布、4か月児とその保護者を対象に絵本を開く楽しい体験と絵本をセットでプレゼントするブックスタート事業（*②）などに取り組んでいます。

令和元年度に実施した「読書活動に関するアンケート調査」では、乳幼児に関して、週1回以上読み聞かせを行っている家庭は79.0%となっており、前回調査（平成28年度）から1.4ポイント、前々回調査（平成25年度）から3.2ポイント上昇するなど一定の効果が見られます。

今後の課題としては、より多くの乳幼児が読み聞かせの楽しさを知るため、保護者側の読書への理解と関心を高める取組の推進が必要です。



※（*数字）の付いた用語は、32Pからの【用語解説】に解説文を掲載しています。

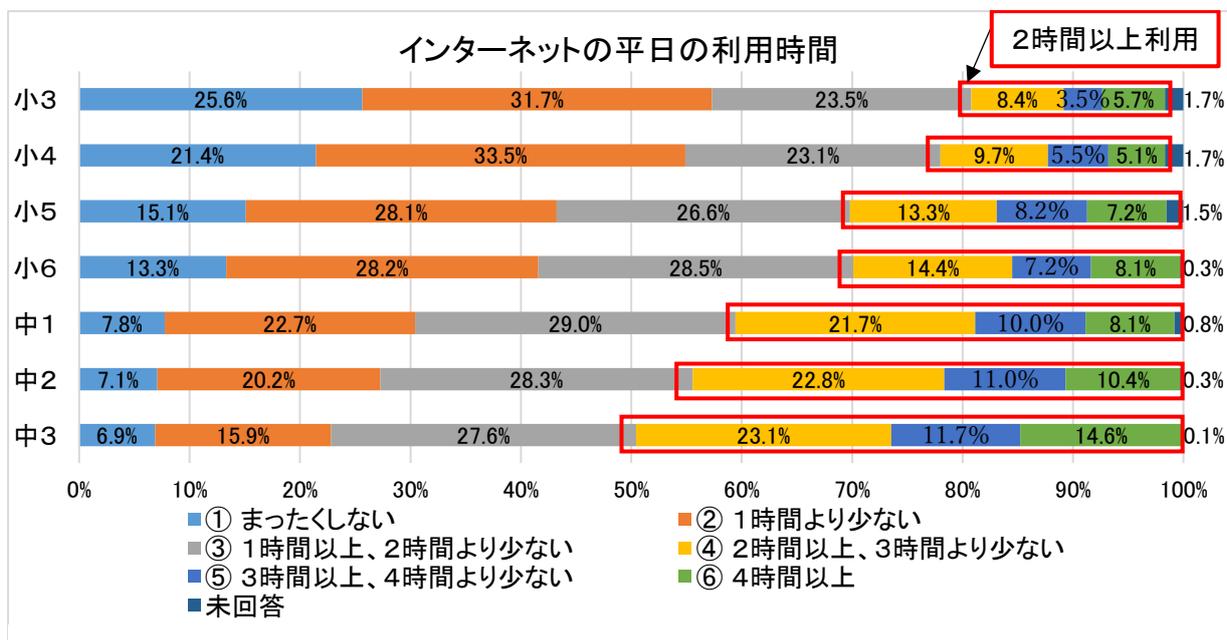
(2) 児童・生徒への取組

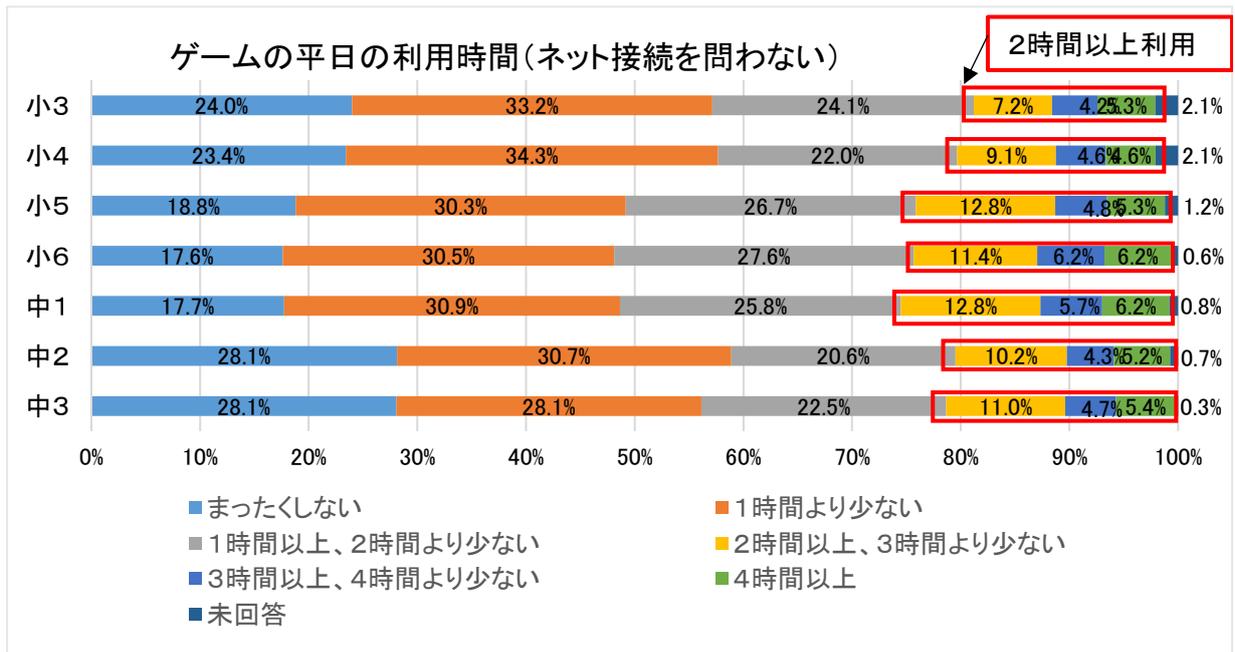
市立図書館では、小学生を対象に、こども司書や読み聞かせの養成講座を実施するなど、自ら読書に関する理解を深めるとともに、読書活動の推進役となり同世代の子どもの読書のきっかけを作り出す取組を進めています。

また、読書離れが進む傾向にある中学・高校生の読書活動を推進するため、中央図書館等にヤングアダルトコーナー（*③）を設置するほか、平成30年度からは、中学生ビブリオバトル（*④）を開催し、令和元年度には各校で予選会を実施した4校の代表10人の応募があるなど、中学・高校生世代の読書活動の推進に努めています。しかし、依然として学校段階が進むにつれて読書離れが進む傾向は改善されていないことが課題となっています。

一方、子どものインターネット等の利用に関する調査結果（令和元年度高松市総合教育センター 調査対象：小学3年生～中学3年生）によると、小学4年生から平日に2時間以上インターネットを利用する割合が20%を超え、中学3年生では約50%に達しています。また、平日に2時間以上、ゲームを利用する割合は、どの学年でも20%前後となっており、インターネットやゲーム利用が子どもの読書環境にも大きな影響を与えている可能性があります。

今後は、成長に伴い他の活動への関心が高まり、相対的に読書の関心度が低くなっている子どもも見られることから、読書習慣の定着を図るため、ゲームの時間を抑制しながら、子どもの読書への関心を高めたり、自ら進んで読書に親しむきっかけをつくる取組を推進する必要があります。





○令和元年度 子どものインターネット等の利用に関する調査(高松市教育委員会)より



ヤングアダルトコーナー



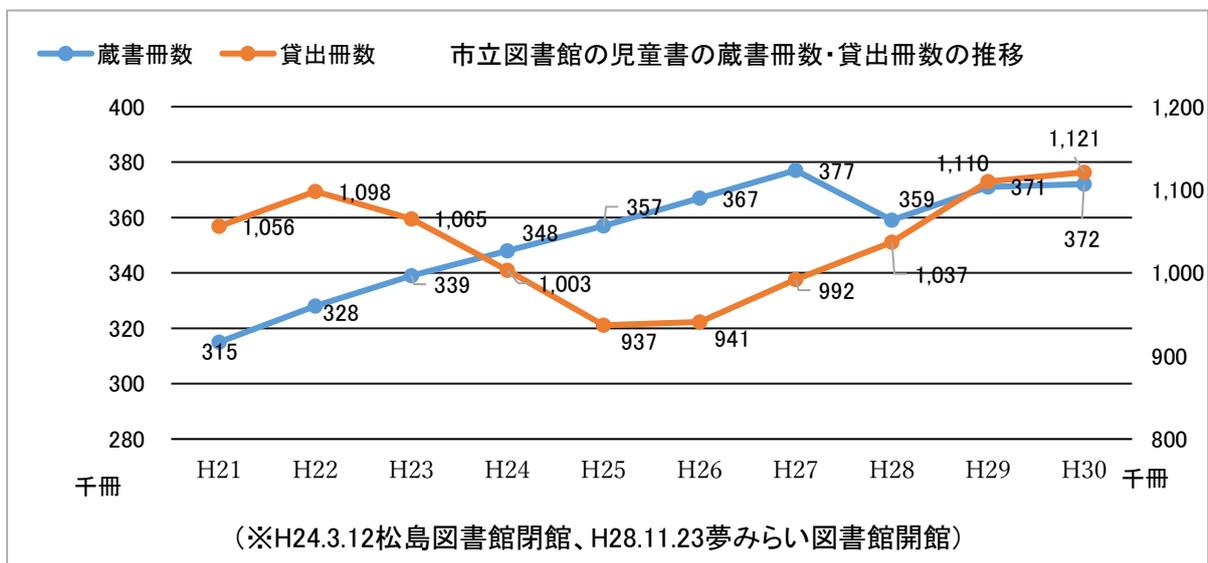
(3) 市立図書館の整備と資料の充実

市立図書館では、子どもの読書活動を支える図書館として、常に児童コーナーの整備・充実を意識しながら様々な取組を進めています。平成28年には、児童書の所蔵割合を高めた、夢みらい図書館を整備し、児童資料の一層の充実を図りました。

児童資料の蔵書冊数、貸出冊数ともに平成28年以降から増加傾向にあり、夢みらい図書館の整備を始め、全館で児童コーナーの充実に取り組んでいる効果がうかがえます。

このほか、中央図書館においては、中学・高校生の世代の読書活動を支援するための「ヤングアダルトコーナー」や、妊娠・出産・育児などに関する図書やパンフレット、チラシなどを配架した「子育て支援コーナー」、障がい児やその家族の方々に役立つ本を取りそろえた「障がい者支援コーナー」の設置など、書架の工夫とコーナーづくりに取り組んでいます。

今後は、幅広い資料の収集による魅力的な書架づくりに努めるとともに、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律の趣旨を踏まえ、図書館利用に障がいのある子どもが利用しやすい環境の整備に積極的に取り組んでいく必要があります。



(4) 子どもの読書に関する普及・啓発

市立図書館では、年齢層に応じたブックリストや、対象年齢別に3種類のカラー化した紹介文付きのブックリストを作成し、各館やブックスタート事業において配布するほか、図書館ホームページのヤングアダルトページや、平成24年に開設したこどもページでも紹介しています。

また、定期的に子ども向け読書広報誌を発行するほか、ケーブルテレビなどの各種メディアを活用して広報活動に努めています。

子どもの読書に関する意識を高め、学校・家庭などでの読書活動を推進することを目的として、秋の「読書週間」(*⑤)(令和元年度は10月27日～11月9日)に実施している子ども読書まつりの来場者数は、平成28年度の約2,000人から令和元年度は約2,200人に増加しており、第4次計画期間中に1.1倍の増加となり、広報活動の効果がうかがえます。

今後は、子どもの読書活動の意義や重要性について理解を深める取組の推進や、様々な広報媒体を通じての子どもの読書活動に関する情報発信の強化を図る必要があります。

子ども読書まつり来場者数 (人)

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
約2,000	約2,000	約2,100	約2,200



子ども読書まつり

子ども読書まつり



(5) 読書ボランティア等との連携と協働、活動支援

市立図書館では、読書ボランティアの育成や資質向上を図るための講座や講演会の実施を始め、読み聞かせに使用する大型絵本等の貸出、ボランティア団体に対する助成制度の紹介、共催・後援事業の実施など、様々な形で読書ボランティア等の活動支援を行っています。

現在高松市では、子どもの読書活動に携わる多くの個人及び団体の読書ボランティアが活動しています。市立図書館においても、月例のおはなし会を始め、子ども読書まつりや夏休み、冬休みのイベント、ブックスタート事業などで協働で事業を実施しています。

今後は、視覚障がいや母国語の違いなどから図書館の利用に障がいのある子どもの読書を支援していく必要があります。そのためにも、読書ボランティアのスキルアップをサポートし、引き続きその活動の充実を支援していく必要があります。

また、多様な読書ニーズに対応していくため、大学や企業、関係機関など様々な主体との連携を図っていく必要があります。

(6) 地域における読書活動の推進

移動図書館車による市内84か所の巡回や、地域の身近な読書施設として市内46か所に設置している中央図書館分室の児童図書の実充及び団体貸出制度の実充に努め、子どもの地域での読書活動を支援しています。

また、地域コミュニティ協議会等へ、図書館を知り、本に親しんでもらうことができるよう、本のソムリエ（本の専門知識を持った職員）を派遣し、地域における読書活動の推進を図っています。

今後は、図書館分室等、地域における図書館サービスの更なる実充や、地区コミュニティセンターでの読み聞かせなどを通じた読書活動の普及啓発の取組を推進する必要があります。



移動図書館車による巡回

2 学校等における読書活動

(1) 保育所(園)・こども園・幼稚園

幼稚園教育要領や保育所保育指針等に基づき、乳幼児が絵本や物語に親しむ活動を積極的に設けています。幼稚園、保育所等では、子どもが読書の楽しさを味わうことができるよう、図書の整備を行うとともに、絵本の読み聞かせや貸出しを通して、興味や関心を広げたり親子のふれあいを増やしたりしています。

今後は、図書の充実や読み聞かせの機会の充実を図るとともに、読み聞かせの大切さや意義を保護者に伝え、家庭における読み聞かせを促進する取組も必要です。



幼稚園、保育所等での読み聞かせ

(2) 学校

小学校低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字で表された場面の様子や登場人物の行動をイメージするようになります。

中学年になると、最後まで本を読み通すことができる子どもとそうでない子どもの違いが現れ始めます。読み通すことができる子どもは、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読むようになります。

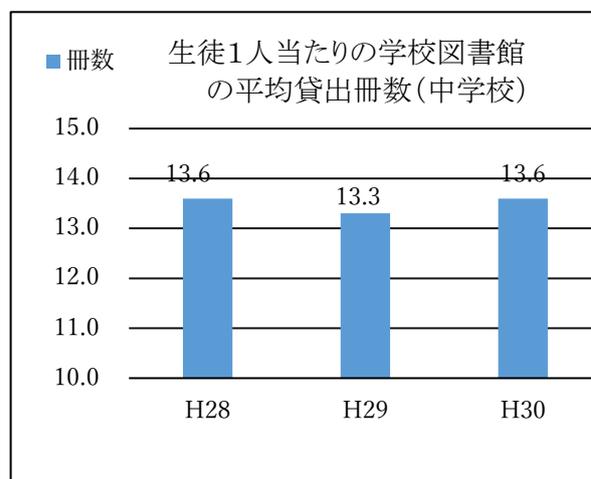
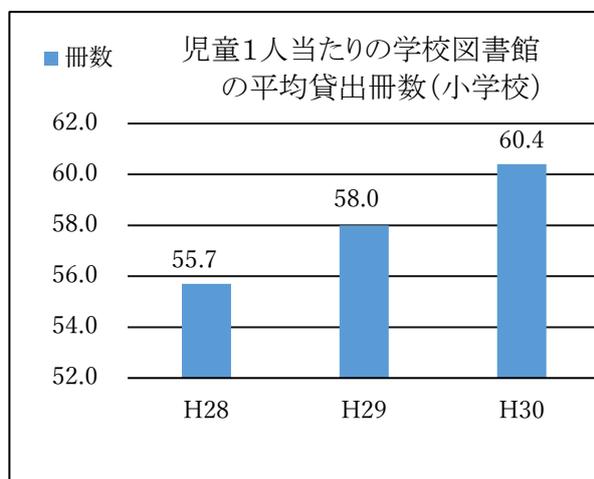
高学年では、本を選択し、そのよさを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始めます。一方で、他の活動へ関心に移り、読書の機会が減る子どもも出てきます。

中学生になると、多読の傾向は減少し、共感できる本を選んで読むようになります。自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになります。

高校生になると、読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになります。

市立小・中学校では、平成24年度に学校図書館図書標準100%（*⑥）を達成し、その後も90～100%を維持し続けているほか、学校図書館指導員（*⑦）の増員によって全校配置を進め、司書教諭や図書館教育主任と連携して、児童生徒の読書活動を支援しています。また、多くの学校で一斉読書活動が定着しており、児童生徒一人当たりの年間貸出冊数は、小学校では増加し、中学校では現状を維持しています。

今後は、全ての子どもが読書の楽しさを味わい、年齢が上がるにつれて読書の幅を広げていくことができるような支援と環境の整備が求められています。



(3) 市立図書館との連携

子どもたちの読書活動や学習活動をより一層充実させるためには、市立図書館と学校との連携・協力が重要です。

市立図書館は、団体貸出を行うとともに、学校図書館指導員研修会へ図書館司書を講師として派遣したり、研修に参加して情報交換を行ったりするなど、学校図書館指導員との連携を図っています。

また、市立図書館において、サンクリスタル学習（*⑧）やこども未来館学習（*⑨）、図書館見学を実施し、市立図書館の利用経験のない児童生徒が、利用方法を学ぶ機会としており、市立図書館の利用促進につながっています。

今後は、学校への市立図書館の団体貸出がより効率的に行えるシステムの構築など、学校と市立図書館の連携を更に深める必要があります。



第3章 子ども読書活動推進への取組

1 基本的な考え方

生涯にわたる読書習慣を身に付けるために、

- ① 乳幼児期からの本との出会いを大切なものと考えます。
- ② 発達段階に応じた取組で読書習慣の定着を図ります。
- ③ 読書離れが懸念されるヤングアダルト世代の読書への関心を高めます。

2 子ども読書活動を推進するための方策

(1) 家庭・地域における読書活動

ア 乳幼児への取組

～家庭における読書環境づくり～

子どもが読書習慣を身に付けるためには、家庭での読書環境づくりが重要です。そのため市立図書館では、関係課との連携の下、ブックスタート事業を継続して実施するとともに、ブックスタートフォローアップ事業を充実させて子どもの成長に応じた絵本情報を提供するなど、より多くの乳幼児が読み聞かせの楽しさを知るきっかけづくりを行い、家庭での読み聞かせの推進を図ります。

また、保護者の読書への理解と関心を高めるため、広く普及啓発活動に取り組み、家庭における読書環境づくりを推進します。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
家庭における読み聞かせの推進	ブックスタート事業の実施	中央図書館 保健センター
	ブックスタートフォローアップ事業の充実	
	図書館司書によるおはなし会等の開催	中央図書館
	読み聞かせ講座等の開催	
保護者等への普及・啓発活動	家庭教育や子育て等に関する講座の開催	生涯学習課 生涯学習センター
	子ども読書まつり等の各種イベント・児童行事の開催	中央図書館

【目 標】

目標指標：家で読み聞かせ、又は読書を週1回以上行っている子どもの割合

区 分	令和元年度（現況）	令和5年度（目標）
1歳6か月児	93%	95%
保育所、こども園、幼稚園 （3歳～5歳）	72%	85%



ブックスタート事業



中央図書館冬のおたのしみ会

イ 児童・生徒への取組

～読書習慣の継続と定着～

乳幼児期から読書習慣を身に付け、それを青少年期においても継続させていくこと、そして、生涯にわたって自主的・自発的に読書する習慣を身に付けることができるよう、また、本から遠ざかっている中学・高校生に対して読書への関心が高まるよう、取組を推進します。

市立図書館では、小中学生を対象として、本が生涯にわたって自身に役立つものとの認識が高まるよう、図書館を使った調べる学習コンクール（*⑩）の開催や子ども司書養成講座などの取組を通して、普及・啓発活動に取り組みます。

また、中学・高校生の読書活動を推進するため、中央図書館等に設置しているヤングアダルトコーナーの活用を図るほか、市内の中学校及び関係課と連携して、中学生ビブリオバトルの開催や学校の図書委員会等との連携事業を実施するなど、児童・生徒の読書への関心を高める取組を推進します。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
読書への関心を高める取組	ヤングアダルトコーナーの活用 （図書館キッズ、ヤングアダルトサポーターの設置）	中央図書館
	中学生ビブリオバトルの開催	中央図書館 学校教育課
	子ども読書会・朗読会の開催	中央図書館
	読書通帳の充実	
	小・中学校の図書委員会等との連携	中央図書館 学校教育課
児童・生徒への普及・啓発活動	こども司書・読み聞かせ養成講座の実施	中央図書館
	図書館を使った調べる学習コンクールの開催	中央図書館 学校教育課

【目標】

目標指標：家で読書を週1回以上行っている子どもの割合

区 分	令和元年度（現況）	令和5年度（目標）
小学生（1年～3年）	80%	85%
小学生（4年～6年）	73%	80%
中学生（1年～3年）	47%	55%
高校生（1年～3年）	24%	45%



図書館を使った調べる学習コンクール作品展



中学生ビブリオバトル

ウ 市立図書館の整備と資料の充実

～あらゆる子どもの読書を支える環境の整備～

子どもたちが豊富な本の中から読みたい本を自由に選び、読書の楽しみを知ることができるよう、幅広い資料・情報の収集を行い魅力的な書架づくりに努めます。

また、障がいのある子どもたちが利用しやすい資料や、外国語の資料についても積極的に収集するとともに、関係機関との連携の下、図書館利用に障がいのある子どもが利用しやすい設備や提供体制について整備を進めます。

また、読書離れが進む傾向にあるヤングアダルト世代に対しては、ヤングアダルトコーナーの図書の実充を図るとともに、展示等の工夫により利用促進を図ります。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
魅力的な蔵書の構築	児童図書の幅広い収集・更新	中央図書館
障がいのある児童等の読書環境づくり	利用しやすい資料（外国語資料を含む）の収集	
	利用しやすい設備・提供体制の整備	
	点字・電子録音図書の製作に係る人材の確保・育成	
ヤングアダルト世代の利用促進	ヤングアダルトコーナーの資料の充実及び掲示や展示の工夫	

【目 標】

目標指標	令和元年度（現況）	令和5年度（目標）
児童用図書館資料の整備・充実	37万2千冊 （平成30年度実績）	38万冊
図書館児童書貸出冊数	112万1千冊 （平成30年度実績）	115万冊

エ 子どもの読書活動に関する普及・啓発

～社会全体の意識の醸成～

読書週間やこどもの読書週間を中心とした読書イベントの開催、読書感想画（*⑪）や図書館を使った調べる学習コンクールの取組など、読書に関する様々な事業や情報についての周知に努め、子どもの読書活動の意義や重要性について市民の理解と関心を高め、社会全体で子どもの読書活動を推進していくことを目指します。

子どもの読書に関する広報誌の発行、ホームページやツイッター等インターネットを利用した広報、ブックリストの配布、新聞やケーブルテレビ等のマスメディアなど、様々な広報媒体を通じて子どもの読書活動に関する情報を広く発信します。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
普及・啓発活動の推進	子ども読書まつり等の各種イベント・児童行事の開催（再掲）	中央図書館
	読書感想画や図書館を使った調べる学習コンクールの取組	学校教育課 中央図書館
広報・情報発信の強化	子ども向けホームページ「きっずの森」の充実	生涯学習課 中央図書館
	図書館子どもホームページの刷新	中央図書館
	子ども読書広報誌「こどものほんのへや」の発行	
	年齢層別ブックリストの更新	
子ども用公式ツイッターなどのインターネットを活用した情報発信		



図書館こどもホームページ

オ 読書ボランティア等との連携と協働、活動支援

～連携と協働による読書環境の充実～

おはなし会や各種イベントの開催など、子どもの読書活動を活発化させるため、ボランティア養成講座や講演会、研修会などを継続して実施し、ボランティアのすそ野を広げるとともに、活動中のボランティアのスキルアップをサポートして、連携と協働による事業を一層推進します。

さらに、学校や保育所(園)・幼稚園等との連携はもとより、大学や企業、関係機関等との連携を図りながら、専門的知識やそれぞれの強みを生かした事業の展開を進めていきます。

また、市立図書館が中心となり、読書ボランティア団体のネットワーク化を図り、情報共有や交流を促進して、幅広く活動できるよう支援します。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
連携と協働の推進	ボランティア団体による月例おはなし会の開催	中央図書館
	各種イベントの協働での開催	
	社会教育団体による親子読書活動の促進	生涯学習課
	大学、企業、関係機関等との連携・協力の推進	中央図書館
活動支援・人材の育成	ボランティアの養成、スキルアップのための講座等の開催	中央図書館
	情報共有と交流の促進	
	市民活動団体の活動支援	男女共同参画・協働推進課

カ 地域における読書活動の推進

～地域における読書環境の充実～

市立図書館を利用していない、あるいは利用しにくい子どもや保護者等の読書活動を推進するため、地域の身近な読書施設である中央図書館分室や移動図書館の利用を促進する取組を進めるなど、地域における図書館サービスの充実に努めるとともに、関係課と協力して、地域における資料の充実に図ります。

また、家庭教育講座等を通じた読書活動の普及・啓発に努めるとともに、コミュニティセンター講座等を活用して、地域で読書に親しむ機会の提供に努めます。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
地域における図書館サービスの充実	移動図書館及び中央図書館分室の利用促進	中央図書館
	ボランティア団体等への団体貸出の充実	
地域における資料の充実	歴史ものしり文庫（＊⑫）、菊池寛紙芝居等の充実（＊⑬）	歴史資料館 菊池寛記念館
	地域子育て支援センターの図書への充実	こども園運営課
家庭教育講座等を通じた読書活動の普及啓発	家庭教育学級の開催、家庭教育（読書に関することを含む）情報の提供	生涯学習課 生涯学習センター
地域で読書に親しむ機会の提供	コミュニティセンター講座（読書ボランティアによる地域でのおはなし会）の開催	生涯学習センター



中央図書館分室

(2) 学校等における読書活動

ア 保育所(園)・こども園・幼稚園

～乳幼児期から読書に親しむ～

乳幼児期からよりよい本と出会い、読書の楽しさを味わうことができるよう、年齢、発達に応じた絵本や物語の読み聞かせ、紙芝居や人形劇など、子どもが楽しくお話に触れる機会を通して絵本への興味や関心が広がるように、題材選び等の工夫を行います。

また、絵本コーナーなどの図書の実充により、子どもがいつでも絵本に触れることのできる環境の整備を進めます。

さらに、乳幼児期から絵本やお話の楽しさを味わい、豊かな感性を培い、興味関心を広げたり、親子の愛着関係を深めたりするため、家庭において読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読む機会を増やしたりするよう働きかけます。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
幼稚園等における読書指導の実充	絵本や物語の読み聞かせ	こども園運営課
日常的な読書活動の場や機会の提供	読み聞かせの機会への、未就園児や保護者などの参加の促し	こども園運営課
読書スペース等の整備	保育所・こども園・幼稚園の図書の整備	こども園運営課

イ 学校

～学校図書館の機能の充実～

子どもの知的活動を増進し、多種多様な興味・関心に応え、魅力的な図書資料を充実するため、学校図書館資料の適切な廃棄と更新を行い、計画的な整備に努めます。読書センターとして子どもが読みたくなるような読書環境の整備・充実に取り組むとともに、学習センター・情報センターとしての機能の充実を図り、児童生徒が現実社会の諸課題について多面的・多角的に考え、公正に判断する力を付けることができるように、全ての小・中学校に新聞1紙を配備します。

また、全ての小・中学校に学校図書館指導員を配置し、定期的な研修や情報交換によるスキルアップを図り、司書教諭や図書館教育主任と連携して、学校の実態に合った学習活動や読書活動の充実や環境の整備を進めます。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
学校における読書指導の充実	絵本や物語の読み聞かせ、一斉読書活動の推進、教育支援センターにおける読書活動の推進	学校教育課 総合教育センター
児童生徒の自発的・自主的な学習活動や読書活動の推進	教科等における調べ活動の推進、図書委員会による読書推進活動の工夫	学校教育課
日常的な読書活動の場や機会の提供	ブックリストの周知・活用、学校図書館の掲示の工夫、学校図書館指導員やボランティアによる読み聞かせ、図書委員会等の活動の充実	学校教育課 中央図書館
家庭への啓発	学校だより、図書館だより等の発行	学校教育課
図書館資料の充実	学校図書館資料の計画的な整備、新聞1紙の配備、学習成果物の展示	学校教育課
読書スペース等の整備	校内の読書コーナーづくり、学習活動の作業スペースづくり	学校教育課

情報化の推進	学校図書館の情報化推進、初任学校図書館指導員へのデータベース化の研修	学校教育課 総合教育センター
人的環境の整備・充実	学校図書館指導員の全校配置及び学校図書館指導員研修会の実施、読書ボランティア活動の推進	学校教育課
学校と家庭の連携による読書指導の推進	保護者懇談会等を利用した意見交換、読書週間やノーマディアデー（*⑭）での連携	学校教育課 少年育成センター
学校と関係機関の連携の推進	放課後児童クラブ・放課後子ども教室と連携した学校図書館の活用	学校教育課 子育て支援課
学校の読書活動における地域の人材の活用	保護者・地域ボランティアの協力による学校図書館運営の充実	学校教育課

【目 標】

目標指標	令和元年度（現況）	令和5年度（目標）
一斉読書活動の推進	定期的に全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合 小学校 96% 中学校 100%	定期的に全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合 小学校 100% 中学校 100%
学校図書館指導員配置の充実	学校図書館指導員配置校 小学校 全校 中学校 全校	学校図書館指導員配置校 小学校 全校 中学校 全校
児童生徒一人当たりの学校図書館図書の間貸出冊数	小学校 60.4冊 中学校 13.6冊 (平成30年度実績)	小学校 61冊 中学校 14冊



ウ 市立図書館との連携

～連携で高める読書習慣の育成～

学校図書館指導員の研修会に図書館司書が参加し情報共有を図るなど、市立図書館と学校及び学校図書館との連携を深めるとともに、調べる学習支援や学校図書館ボランティアの育成支援等を推進します。

また、中学・高校生が作成したPOP（*⑮）やおすすめ本の紹介文を図書館内で掲示するなど、読書意欲を高める取組を行います。

さらに、市立図書館からの団体貸出の利用促進を図るとともに、サンクリスタル学習やこども未来館学習、図書館見学、職場体験の受入れなどのより、図書館への理解を深めるとともに利用の促進を図ります。

【今後の取組】

施策の方向	主な取組	担当課
学校と図書館との連携推進	学校支援体制の充実、市立図書館資料の団体貸出、POPやおすすめ本の紹介文の掲示	学校教育課 中央図書館
児童生徒の図書館等への受入れ	サンクリスタル学習やこども未来館学習、図書館見学、職場体験の受入れ	学校教育課 中央図書館 歴史資料館 菊池寛記念館



一斉読書活動

発達段階別事業一覧

主な取組を、子どもの発達段階に沿って整理し、まとめました。

	発達段階			
	乳幼児	小学生	中学生	中学校卒業～
家庭・地域における読書活動	ブックスタート事業、ブックスタートフォローアップ事業 (1)-ア			
	家庭教育や子育て、児童行事等の開催 (1)-ア			
	読書通帳の充実 (1)-イ			
		こども司書・読み聞かせ養成講座 (1)-イ		
		図書館を使った調べる学習コンクール、図書委員会等との連携 (1)-イ		
			中学生ビブリアバトル (1)-イ	
			ヤングアダルトコーナーの資料充実・展示の工夫 (1)-ウ	
	児童図書の幅広い収集・更新 (1)-ウ			
	視覚障がい者等の利用しやすい資料、利用しやすい設備・提供体制の整備、点字・電子録音図書の製作に係る人材の確保・育成 (1)-ウ			
		子ども向けホームページ、読書広報誌 (1)-エ		
		年齢層別ブックリストの更新、子ども読書まつり等の各種イベント・行事の開催 (1)-エ		
	インターネットを活用した情報発信 (1)-エ			
		社会教育団体による親子読書活動の促進、ボランティア養成、スキルアップ講座等の開催 (1)-オ		
		家庭教育学級、コミュニティセンター講座等の開催 (1)-カ		
		地域子育て支援センター、歴史ものしり文庫、菊池寛紙芝居等の充実 (1)-カ		
	移動図書館及び分室の利用促進 (1)-カ			
学校等における読書活動	絵本等の読み聞かせ(2)-ア			
	幼稚園等の絵本コーナーなどの図書の充実 (2)-ア			
		放課後児童クラブ等と学校図書館の連携 (2)-イ		
		絵本や物語の読み聞かせ、一斉読書活動の推進、ブックリストの周知・活用 (2)-イ		
		教育支援センターにおける読書活動 (2)-イ		
		図書委員会による読書推進活動の工夫 (2)-イ		
		学校図書館資料の計画的整備、新聞の配備 (2)-イ		
		校内の読書コーナーづくり等、読書スペース等の整備、学校図書館の情報化の推進 (2)-イ		
		学校図書館指導員の全校配置、研修会の実施 (2)-イ		
		保護者等の協力による学校図書館運営の充実 (2)-イ		
		学校支援体制充実、市立図書館資料の団体貸出(2)-ウ		
		サンクリスタル学習等、職場体験の受入れ (2)-ウ		
		POPやおすすめ本の紹介文の掲示 (2)-ウ		

高松市子どもの読書活動に関するアンケート調査結果

1 調査目的

第5次高松市子ども読書活動推進計画の策定の参考とするため

2 調査対象及び調査方法

対 象	回答人数	備 考
1歳6か月児	122人	1歳6か月児健診
保育所、こども園、幼稚園 (3歳～5歳)	244人	市内保育所、こども園、幼稚園6園
小学生(1年～3年)	274人	市内小学校3校
小学生(4年～6年)	353人	市内小学校3校
中学生(1年～3年)	295人	市内中学校3校
高校生(1年～3年)	330人	市内高等学校1校

※1歳6か月児、3歳～5歳児、小学1～3年生は保護者が回答、小学4年生以上は本人が回答

3 調査時期

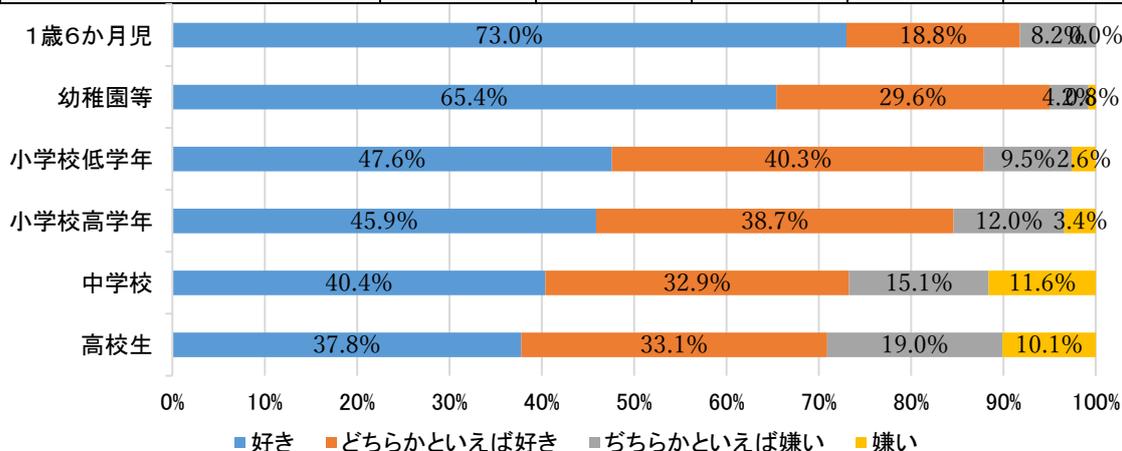
令和元年10月28日(月)～11月12日(火)

4 調査結果

次ページ以降のとおり

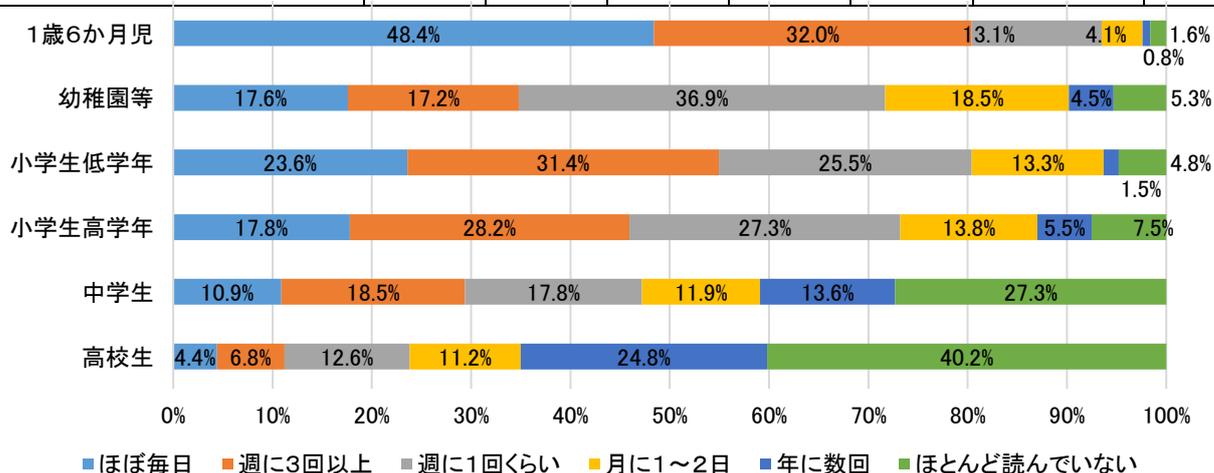
(1) あなたは本を読むこと(絵本等の読み聞かせ)が好きですか (人)

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
1歳6か月児	89	23	10	0	0
保育所、こども園、幼稚園	157	71	10	2	4
小学生(1年～3年)	130	110	26	7	1
小学生(4年～6年)	161	136	42	12	2
中学生(1年～3年)	118	96	44	34	3
高校生(1年～3年)	123	108	62	33	4



(2) 家でどのくらいの頻度で本を読んでいますか(読み聞かせをしていますか) (人)

	ほぼ毎日	週に3日以上	週に1日くらい	月に1～2日	年に数回	ほとんど読んでいない	無回答
1歳6か月児	59	39	16	5	1	2	0
保育所、こども園、幼稚園	43	42	90	45	11	13	0
小学生(1年～3年)	64	85	69	36	4	13	3
小学生(4年～6年)	62	98	95	48	19	26	5
中学生(1年～3年)	31	53	51	34	39	78	9
高校生(1年～3年)	13	20	37	33	73	118	36



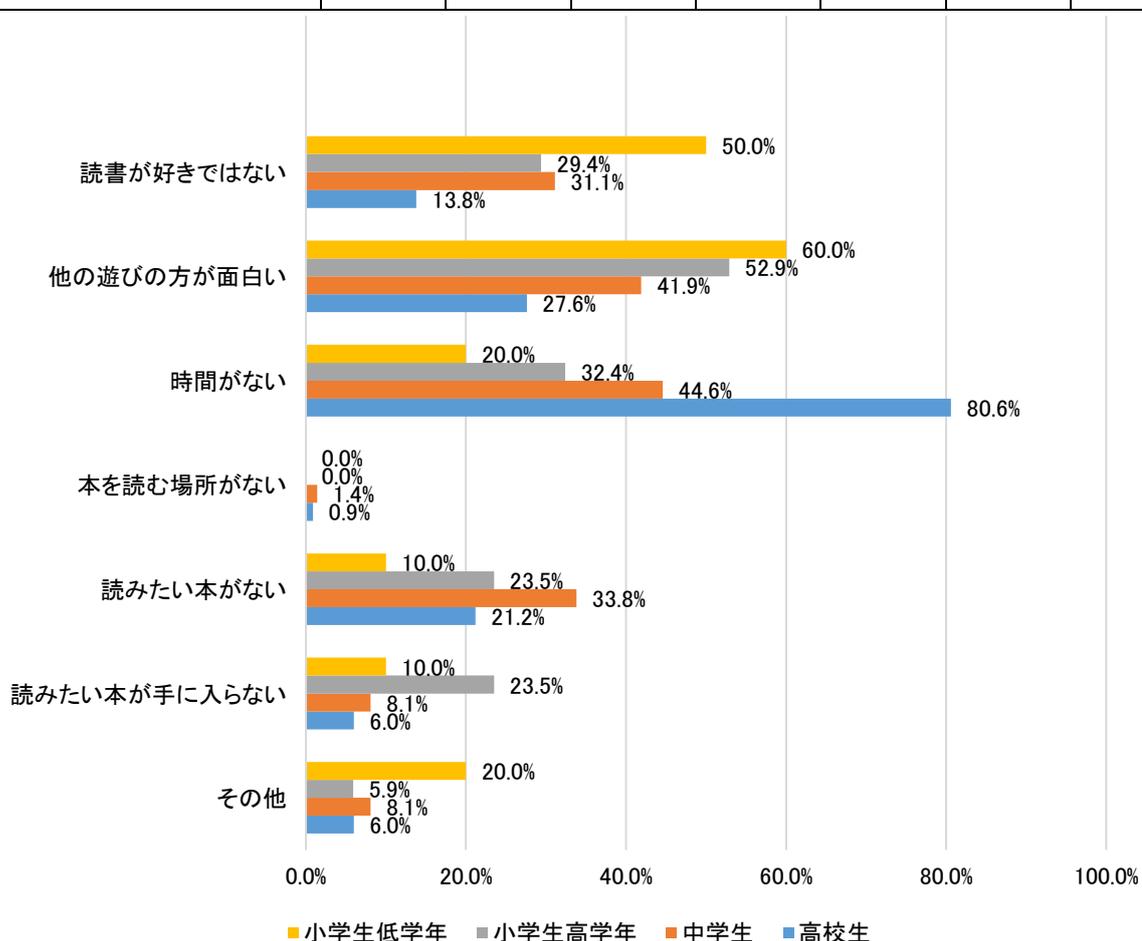
(3) あなたは、今日までの1か月間に、本を何冊読みましたか。

	平均冊数	1冊も読まなかった人の割合
保育所、こども園、幼稚園	13.5冊	2.9%
小学生(1年～3年)	14.7冊	2.2%
小学生(4年～6年)	11.2冊	6.8%
中学生(1年～3年)	5.1冊	23.8%
高校生(1年～3年)	1.2冊	65.2%

(4) 1冊も読まなかった理由(複数回答可)

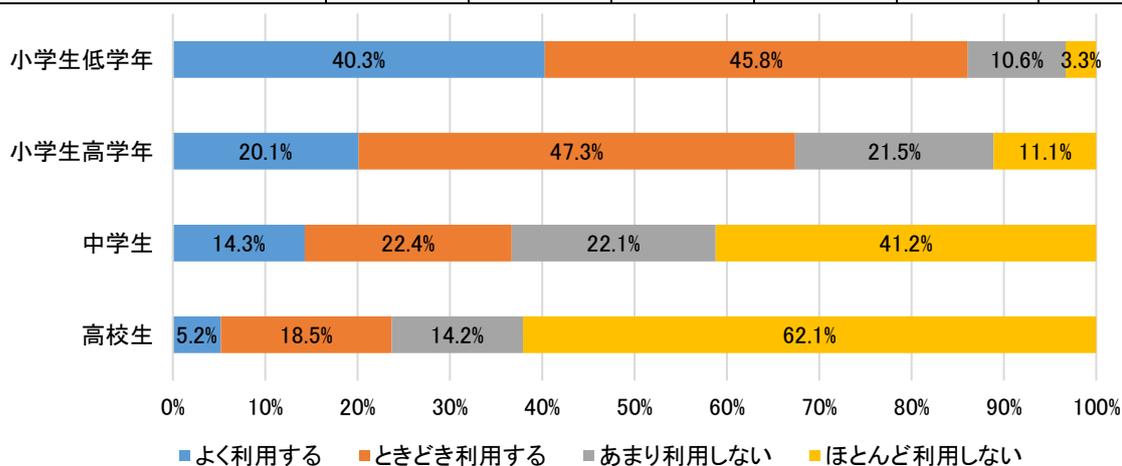
(人)

	読書が好きではない	他の遊びの方が面白い	時間がない	本を読む場所がない	読みたい本がない	読みたい本が手に入らない	その他
保育所、こども園、幼稚園	0	6	4	0	0	0	1
小学生(1年～3年)	5	6	2	0	1	1	2
小学生(4年～6年)	10	18	11	0	8	8	2
中学生(1年～3年)	23	31	33	1	25	6	6
高校生(1年～3年)	30	60	175	2	46	13	13



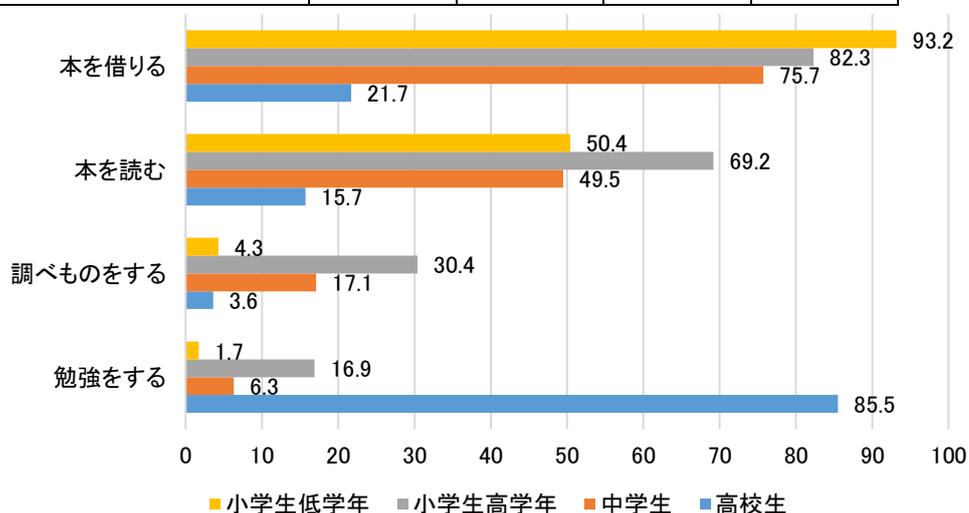
(5) 学校の図書館をどのくらい利用していますか (人)

	よく利用 する	ときどき 利用する	あまり利 用しない	ほとんど利 用しない	貸出図 書がない	無回答
保育所、こども園、幼稚園	76	100	20	41	5	2
小学生(1年～3年)	110	125	29	9		1
小学生(4年～6年)	71	167	76	39		0
中学生(1年～3年)	42	66	65	121		1
高校生(1年～3年)	17	61	47	205		0



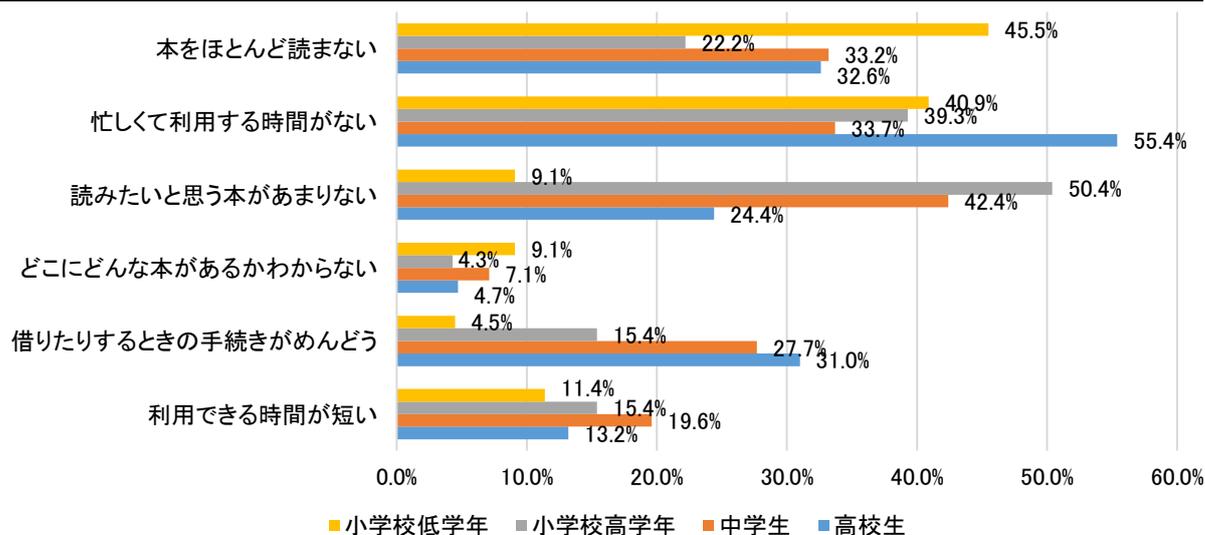
(6) 学校図書館をどんな目的で利用しているか(複数回答可) (人)

	本を借り る	本を読む	調べもの をする	勉強を する
小学生(1年～3年)	218	118	10	4
小学生(4年～6年)	195	164	72	40
中学生(1年～3年)	84	55	19	7
高校生(1年～3年)	18	13	3	71



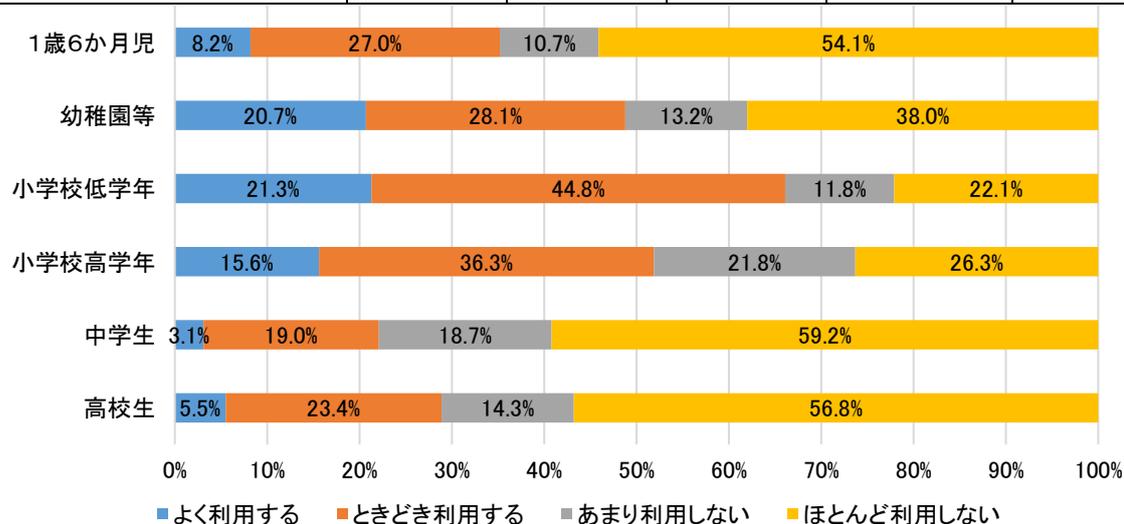
(7) 学校図書館をあまり利用しない理由は(複数回答可) (人)

	本をほとんど読まない	忙しくて利用する時間がない	読みたいと思う本があまりない	どこにどんな本があるかわからない	借りたりするときの手続きがめんどう	利用できる時間が短い
小学生(1年～3年)	20	18	4	4	2	5
小学生(4年～6年)	26	46	59	5	18	18
中学生(1年～3年)	61	62	78	13	51	36
高校生(1年～3年)	84	143	63	12	80	34



(8) 公立図書館をどのくらい利用しているか (人)

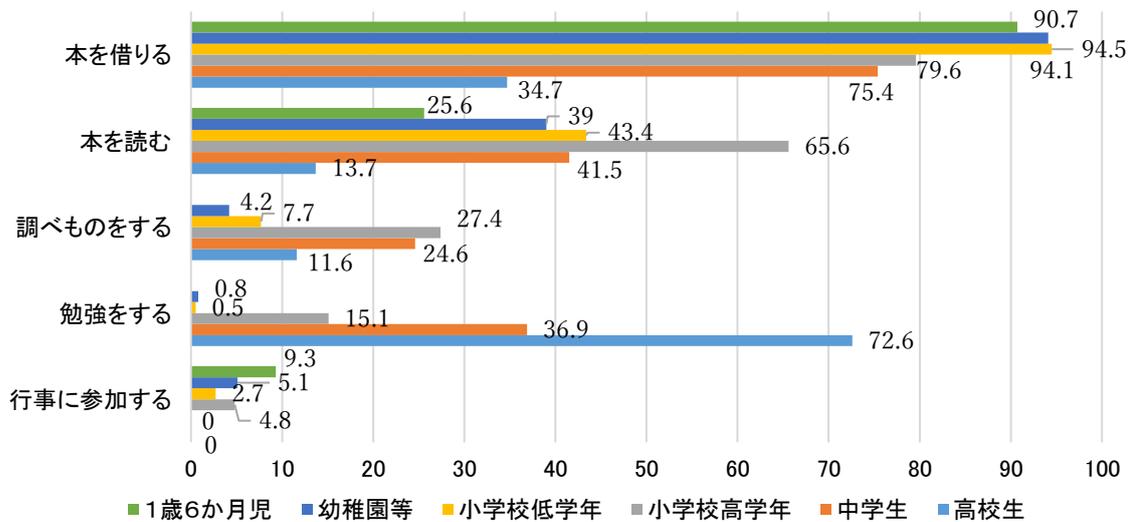
	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	ほとんど利用しない	無回答
1歳6か月児	10	33	13	66	0
保育所、こども園、幼稚園	50	68	32	92	2
小学生(1年～3年)	58	122	32	60	2
小学生(4年～6年)	55	128	77	93	0
中学生(1年～3年)	9	56	55	174	1
高校生(1年～3年)	18	77	47	187	1



(9) 公立図書館をどんな目的で利用しているか(複数回答可)

(人)

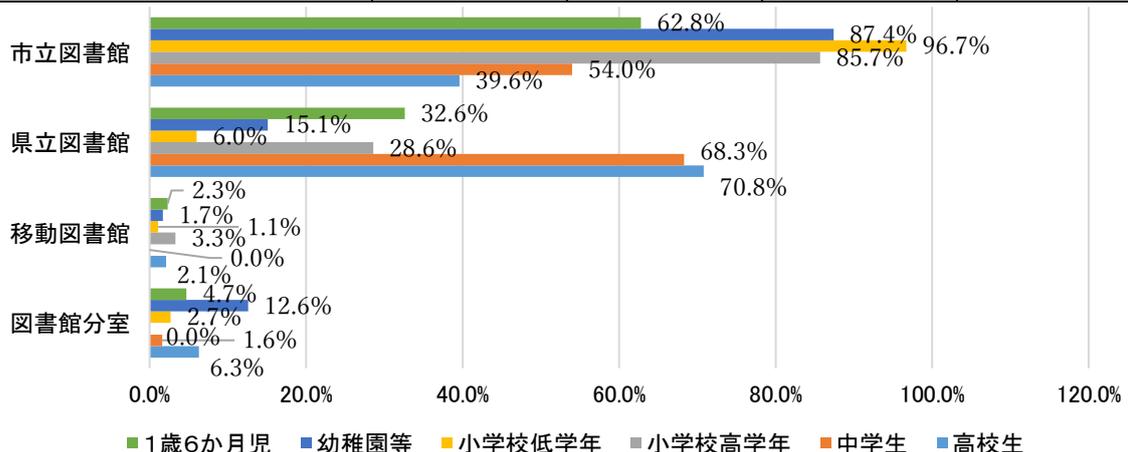
	本を借りる	本を読む	調べものをする	勉強をする	行事に参加する
1歳6か月児	39	11			4
保育所、こども園、幼稚園	111	46	5	1	6
小学生(1年～3年)	172	79	14	1	5
小学生(4年～6年)	148	122	51	28	9
中学生(1年～3年)	49	27	16	24	0
高校生(1年～3年)	33	13	11	69	0



(10) よく利用している図書館は(複数回答可)

(人)

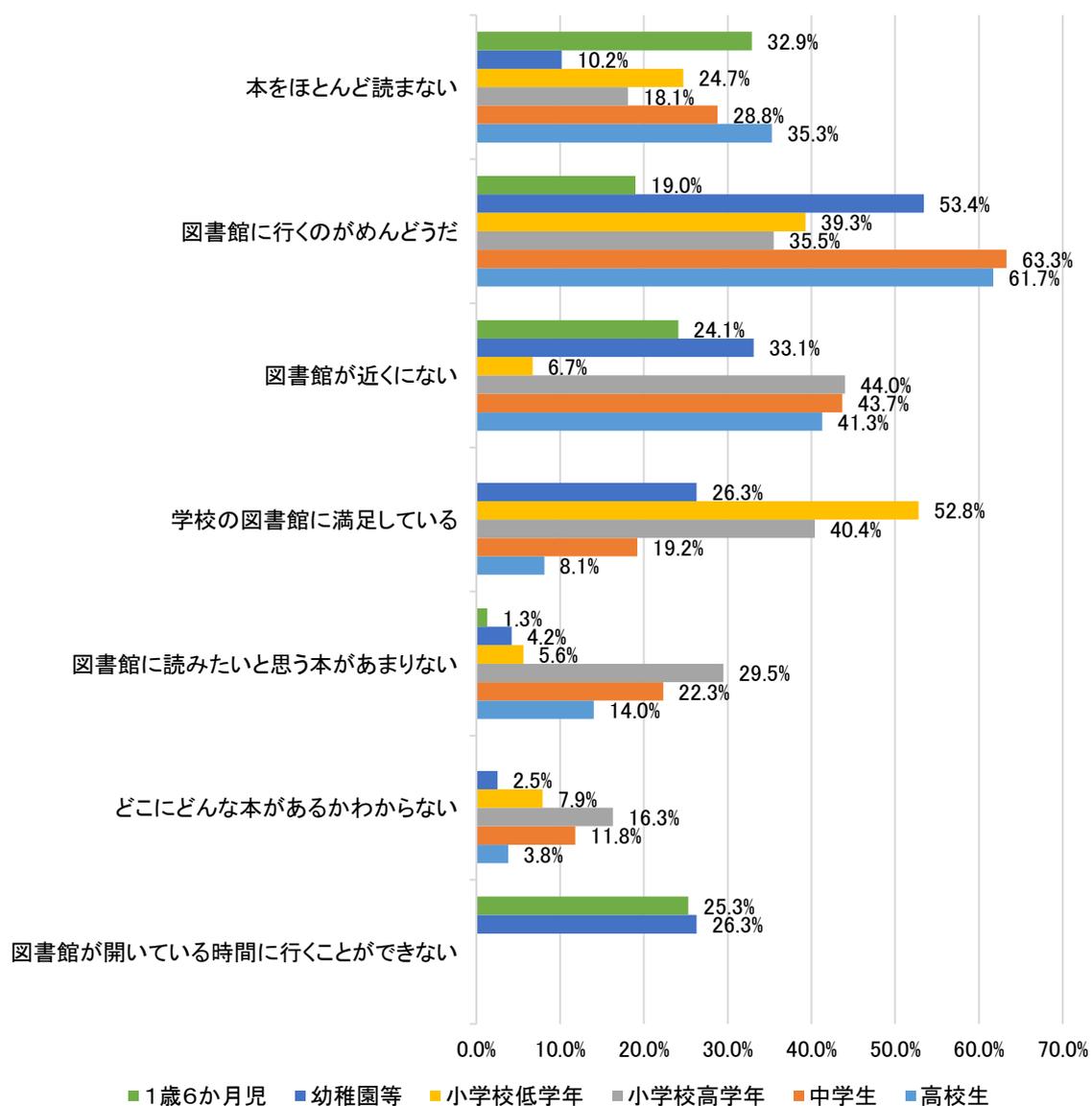
	市立図書館	県立図書館	移動図書館	コミュニティセンターの図書室
1歳6か月児	27	14	1	2
保育所、こども園、幼稚園	104	18	2	15
小学生(1年～3年)	176	11	2	5
小学生(4年～6年)	156	52	6	8
中学生(1年～3年)	34	43	0	1
高校生(1年～3年)	38	68	2	6



(11) 公立図書館をあまり利用しない理由は(複数回答可)

(人)

	本をほとんど読まない	図書館に行くのがめんどうだ	図書館が近くにない	学校の図書館に満足している	図書館に読みたいと思う本があまりない	どこにどんな本があるかわからない	図書館が開いている時間に行くことができない
1歳6か月児	26	15	19		1		20
保育所、こども園、幼稚園	12	63	39	31	5	3	31
小学生(1年～3年)	22	35	6	47	5	7	
小学生(4年～6年)	30	59	73	67	49	27	
中学生(1年～3年)	66	145	100	44	51	27	
高校生(1年～3年)	83	145	97	19	33	9	



【用語解説】

① ブックリスト (p.3)

親が読み聞かせをしたり、子どもが読みたい本を探したりすることを手助けをすることを目的に作成した年齢層に応じた推薦図書のリスト。

② ブックスタート事業 (p.3)

保健センター等で実施する4か月児相談時に、赤ちゃんと絵本を開く楽しい体験とともに、絵本を手渡すことで、赤ちゃんと保護者がゆっくり向き合い、心ふれあうひとときを持つきっかけをつくる事業。

③ ヤングアダルト (p.4)

おおよそ、13歳頃から19歳頃の若者。子供から大人に成長する時期をいう。

④ ビブリオバトル (p.4)

発表者が面白いと思った本を一人5分程度で紹介し、その発表に関する意見交換を2～3分程度行い、終了後、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動。

⑤ 読書週間 (p.7)

出版文化の向上、読書意欲の高揚を目的に、毎年11月3日の文化の日を中心に前後2週間にわたって行われる全国的な行事。

⑥ 学校図書館図書標準 (p.10)

公立の義務教育諸学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として、文部科学省が定めている、学校規模に応じた標準冊数。

⑦ 学校図書館指導員 (p.10)

児童生徒の豊かな読書活動を推進するとともに、学校図書館の環境整備をするために、本市が小・中学校に配置している指導員。

⑧ サンクリスタル学習 (p.11)

サンクリスタル高松の歴史資料館、菊池寛記念館、中央図書館において、歴史、文学、図書館見学を行う体験学習。

- ⑨ こども未来館学習 (p.11)
こども未来館の施設・設備を利用して行う、科学やプラネタリウム、図工などの体験学習。
- ⑩ 図書館を使った調べる学習コンクール (p.14)
図書館資料をはじめ様々な情報を活用した調べる学習を通じて、児童生徒自らが考え、判断し、表現する力をはぐくむとともに、その活動のなかで公共図書館、学校図書館での調べ方を体得し、有効に活用する力を養うことを目的とする事業。優秀な作品は全国コンクールに出品される。
- ⑪ 読書感想画 (p.17)
読書によって得た感動を絵画で表現することを通して、幼児・児童の読解力や表現力を養うことを目的とする事業。
- ⑫ 歴史ものしり文庫 (p.19)
歴史資料館ロビーに、歴史・文化関係図書のほか、専門的で普段接する機会の少ない市内の埋蔵文化財発掘調査関係報告書、全国各地の博物館発刊図録等を置き、来館者に紹介している。
- ⑬ 菊池寛紙芝居 (p.19)
菊池寛の生涯や、業績についてイラストを交えながら分かりやすく解説した小学生向けの紙芝居で、サンクリスタル学習や出前講座でも活用している。
- ⑭ ノーメディアデー (p.22)
全小・中学校の児童生徒を対象に家庭の協力のもと、各学校・各家庭の状況に応じてメディア（インターネット、ゲーム機、テレビ等）の利用を休止又は制限する日。
- ⑮ POP（ポップ） (p.23)
おすすめしたい本を紹介するためのカード。

第5次高松市子ども読書活動推進計画

発行年月 令和2年3月

発行 高松市

編集 第5次高松市子ども読書活動推進計画策定委員会

問合せ先 高松市中央図書館

〒760-0014

高松市昭和町一丁目2番20号

サンクリスタル高松内

TEL:087-861-4501 Fax:087-837-9114

Eメール:library@city.takamatsu.lg.jp

ホームページ:<https://library.city.takamatsu.kagawa.jp/>

(表紙絵・カット 高松市中央図書館司書 中村 文音)